

和 歌山県において、全国初の取り組みとして始まった「和歌山研修ネットワーク」が2025年度で12年目を迎えた。大学病院や市中病院、地域での研修を自由に組み合わせ、研修医一人一人が自らの志向に合わせたプログラムを構築できるこの仕組みは、まさに「和歌山県全体が一つの大きな臨床研修病院」と呼ぶにふさわしい。ちょうどよい規模感の中で研修に集中することができるのが、和歌山県での臨床研修の特徴である。今回は、和歌山県立医科大学附属病院卒後臨床研修センター参与の蒸野寿紀先生と、和歌山ろうさい病院の矢代萌先生、和歌山県立医科大学附属病院の百名孝太先生の2人の研修医にご登場いただき、12年目を迎えた「和歌山研修ネットワーク」の魅力について語っていただいた。

Case Study

地域医療のカタチ 和歌山県

和歌山県全体が

大きな病院のような

「和歌山研修ネットワーク、

12年目の自信

和歌山県立医科大学附属病院
初期研修医 2年目

百名 孝太

Kota Hyakuna

和歌山県立医科大学附属病院
卒後臨床研修センター 参与

蒸野 寿紀

Toshiki Mushino

和歌山ろうさい病院
初期研修医 2年目

矢代 萌

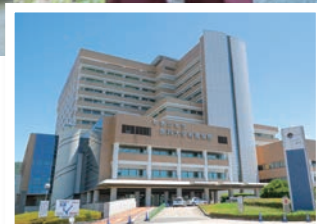
Moe Yada

や仲間と出会えるのが魅力です。ね。別の病院で出会った同僚と、また別の病院で再会することもある。あつて、人とのつながりが広く、深くなっている実感があります。矢代…私は福井大学を卒業し、故郷である和歌山にUターンしました。きっかけはレジナビフェアでこのネットワークを知ったこと。産婦人科志望ですが、自分で将来に役立つ研修を構築しながら学びたいと思っていました。現在は和歌山ろうさい病院

いわゆる“たすきがけ”とは異なる
柔軟な仕組みのプログラム

編集部…まず、「和歌山研修ネットワーク」の特徴について教えてください。

百名…僕は和歌山で生まれ育ち、地域医療で和歌山県立医科大学に入学しました。すでに多くの病院を回っていますが、その



和歌山県立医科大学附属病院

本特集の取材・撮影の舞台。和歌山研修ネットワークの中心として、地域と大学が連携し、研修医を育てる体制を整える同院は、和歌山県の研修医教育の要を担う。



about WAKAYAMA



和歌山県は海・山・川の大自然に恵まれ、年間日照時間が長く、温暖な気候で過ごしやすい地域。「フルーツ王国」といわれるほど果物の生産量が多く、水産業も盛んである。世界遺産など歴史文化にも恵まれ、全国有数の温泉地であり、アドベンチャーワールド、和歌山マリーナシティなどレジャー施設や観光スポットも豊富。大阪からは電車や車で約1時間、東京からは観光地にある南紀白浜空港まで飛行機で約70分とアクセスも良好。

「研修医ファースト」が 根付く文化

所属ですが、今月は和歌山研修ネットワークを利用し、和医大で研修しています。大学病院ではハイリスク出産や緩和ケアを経験し、市中病院では分娩の現場に立ち会う。自分に必要な経験ができる場所を組み合わせられるのは大きな利点です。

蒸野：和歌山の研修は、いわゆる「たすきがけ」とは異なります。9つの基幹型臨床研修病院すべてが相互に協力型病院となり、どの基幹型臨床研修病院で採用されて研修医になっても、同じ研修ネットワークを利用することができます。3カ月ごとにローテート科を1カ月単位で選択できるので、1年で平均4病院、多い人は6、7病院を回るケースもあります。研修医がその時、その時にやりたいことを探しながら、柔軟に経験を積めるのが最大の特徴です。

ひたむきに臨床に 向き合える環境

編集部：複数の病院を行き来するのは、その都度慣れるまで大変ではないですか？

百名：カルテのシステムが異なったり、器具の呼び方が違ったりして戸惑うことはあります。でも、それも経験

として受け取っています。今後、異動や転勤で新しい環境に飛び込むことは必ずあるので、早いうちにさまざまなシステムに慣れておくのは大きな強みになると思います。

矢代：私もそう思います。それに、病院が変わるたびに自然と人脈も広がっていくので、プログラムそのものが、私たちの人間関係のネットワークづくりにもつながっていると実感しています。和歌山県ならではの環境で、研修医の今にしかできない経験を積ませてもらっています。

蒸野：和歌山県では、12年の経験から病院間の連携が強くなり、どの病院でも研修医を迎える体制が整っています。病院間で顔の見える関係が築かれているので、短期間でいくつもの病院を回っても研修医が煩雑な手続きをする必要もなく、どの病院に行っても安心して学べます。研修医が孤立しないよう、県全体で支える文化が根付いているのは全ての病院で「研修医ファースト」を徹底してきただからこそです。

編集部：最近独自の特色を打ち出す県も増えていますが、和歌山県の+αはどんなところにありますか？

蒸野：特に斬新な制度とは言えないかもしれませんが、だからこそひたむきに臨床に向き合える環境だと思っています。シンブルですが、医師として必要な力を徹底的に養える仕組みがここにはあります。

百名：それは本当に実感します。「派手さはないけれど、確実に力が付く」。研修医にとって大事なのは、医師駆け出しの貴重な2年間を無駄にしないことだと思います。ここでは日々の症例がしっかりと自分の糧になっている手応えを感じられます。

矢代：私は、まずは医師としての基本的な経験をろうさい病院などで積ませてもらっています。その上で、産婦人科の基礎や専門性を高める研修は大学病院で受けられます。こうした組み合わせが自由にできるところが+αだと思います。

蒸野：「和歌山研修ネットワーク」は、地域の医師不足解消にも直結しています。研修を通じて地域の医療課題を知り、問題意識を持つことが、研修医の将来のキャリアや専門選択に自然と結び付いていく。地域医療を支

和歌山研修ネットワークの特徴

メリット

- 研修の途中で、興味のある病院、診療科が変わっても、柔軟に対応可能

ルール

- 採用4カ月目以降、3カ月ごとにローテート科を1カ月単位で選択可能
- 採用病院を除き、同じ病院での研修は連続して3カ月まで

POINT /
2
3カ月ごとに
ローテート科を
1カ月単位で
選択可能



メリット

- 大学病院、市中病院どちらも経験できる。〇〇科について□□病院で学びたい！という希望も可能
- 採用病院にない診療科の研修もできる

ルール

- 必修分野を除く期間の病院、診療科を自由に選択可能
- 病院によっては必修部分の選択が可能な場合もある
- 厚生労働省のルールとして、研修期間2年のうち通算12カ月以上は原則採用病院で研修する必要がある

POINT /
1
大学病院を含む
県内9つ全ての
基幹型臨床研修
病院で研修可能



Case Study

地域医療のカタチ 和歌山県

える施策としても非常に重要なのです。

百名…確かに、早い段階から地域ごとの課題に直面できるのは大きいですね。症例を診るだけでなく

「なぜこの地域でこの疾患が多いのか」どうすれば地域により良い医療を届けられるのか」と考えるきっかけになります。こうした視点を

得られることが+αだと気付きました。多角的な視点が持てることは将来、必ず役立つと思います。

蒸野…いろいろな病院を経験することで、同じ診療科でも大病院と市中病院では扱う症例や求められる対応が違うことが分かります。その体験が将来の進路を選ぶときに、大きな判断材料にもなると思います。

矢代…確かに実際に回ってみて初めて気付くことも多かったですが、3年目の進路選択においても、このネットワークは最適だと思っています。

蒸野…制度をスタートしてから、3年目以降も和歌山県に残る医師の割合は毎年高水準を保っています。これは、研修の2年間で地域の医療に触れ



POINT / 4

研修医ファーストの文化

「研修医ファースト」が根付いており、県全体で研修医を歓迎する文化がある。



Q

蒸野先生のOFFの過ごし方は？

OFFはスポーツジムやサウナで汗をかいています。先日、野球部出身の百名先生から、バッティングセンターでの打撃フォームを指導してもらいました！バッティングに関しては百名先生が私の指導医です(笑)。



和歌山県立医科大学附属病院
卒後臨床研修センター 参与

蒸野 寿紀 Toshiaki Mushino

出身地：和歌山県

出身大学：自治医科大学

POINT / 3

県内の指導医同士も顔見知りにつながっています！

「和歌山県全体が『選ばれる臨床研修地』となるべく、指導医のレベルアップも心がけています」(蒸野先生)



和歌山県ならではの研修環境

編集部：和歌山でしか経験できないことは何ですか？

百名…都会では少ない症例が豊富に経験できます。マダニ咬傷、マムシ咬傷、手に釣り針が刺さった患者さんなど、この地域ならではの症例を診られます。

矢代…地元の和歌山に戻ってきて感じたのは気候の良さですね。日照時間が長く、暮らしやすい環境です。物価も安く、広い部屋に住めるのもありがたいですね。

蒸野…やっぱり人が優しいです。県民性でもあるのか、患者さんが若い医師と一緒に育てようと協力してくれるのもうれしいです。そして、生活の利便性も意外と良いのです。高速道路も発達していますし、関西国際空港から和歌山まで車で30〜40分と、大阪にもすぐ行けるので田舎暮らしといったイメージはないんです。自然環境に囲まれながらも都市部へのアクセスが良く、オフも充実している研修医が目立ちますね。週末にサーフィン

で自分が貢献していると実感できるからだと思います。



ネットワークを継続する
和歌山の未来

蒸野：「和歌山研修ネットワーク」での研修を経験した多くの医師たちが、現在指導医として後輩を育てています。だからこそ研修医への理解があり、研修医は、自分の希望を伝えやすく、一人一人に合ったプログラムが柔軟に作成できているのだと思います。これも12年継続している強みと

をしたり、仕事が終わったら釣りをしたりする研修医たちもいます。

Q

気分転換や

リフレッシュ方法は？

休日に大学の友達と大阪で買い物をしたりしてリフレッシュしています。大阪を待ち合わせ場所にすると、お互い1時間ぐらいで集合できるので、頻繁に会えるんです(笑)。近畿や北陸の大学出身者には「あるある」かもしれませんね。



和歌山ろうさい病院
初期研修医 2 年目

矢代 萌 Moe Yada

出身地：和歌山県
出身大学：福井大学
(2024年卒)



POINT /

6

研修医支援体制の充実

採用病院のプログラム責任者が、研修医の到達目標を達成できるよう責任を持って、助言・指導・サポートを行う。また、採用病院以外で研修中も所属は採用病院のままなので、研修先変更に伴う手続きは最小限で済む。



Q

和歌山ライフは どんな感じ？

僕は野球観戦が日課ですが、同期の研修医たちの休日の傾向としては釣りやサーフィン、アウトドア、温泉、世界遺産を見に行ったりして、和歌山ライフを堪能しているイメージです。



和歌山県立
医科大学附属病院
初期研修医 2 年目

百名 孝太 Kota Hyakuna

出身地：和歌山県
出身大学：和歌山県立医科大学
(2024年卒)



INFORMATION

和歌山県
医師臨床研修
連絡協議会



レジナビ 和歌山



和歌山県には、ひたむきに臨床と向き合える環境、他にはない自由度の高いネットワーク、県全体で研修医を育て支える研修医ファーストな文化がある。大学病院で高度医療を、市中病院で Common Disease を、地域で住民に寄り添う医療を2年間でしっかり経験できる。12年目を迎えた「和歌山研修ネットワーク」は、今や「県全体が大きな病院」だという大きな自信に満ちている。ここで過ごす2年間は、将来のキャリア形成における大きな糧となるだろう。

いえるでしょう。
百名：僕自身、自分の進むべき道を見極める上で、多くの先生や同僚との出会いが支えになりました。このつながりが自身の財産になっています。
矢代：自由に選べる環境がなければ、今の進路はなかったかもしれません。研修医が主役になれる場所、それが「和歌山研修ネットワーク」です。